



## ホスピスの診療体制が変更されました。 複数の医師、診療科が関わることにより、 より幅の広い緩和ケアを実現!

2018年4月より緩和ケア科の診療体制が変わりました。従来ホスピス聖霊(緩和ケア病棟)では専従の医師による診療が行われていました。専従とは緩和ケア専門で他の仕事は(ほとんど)しないことです。4月以降に緩和ケアを担当している医師は3~4名で全員が兼任となります。つまり各々が緩和ケア以外に呼吸器内科、消化器科、泌尿器科などといった他分野での診療にも従事しております。

専従と兼任にはそれぞれメリット・デ

メリットがあります。専従は緩和ケアに注力できるため、より専門性が高く密度の濃い診療が期待できますが、やや閉鎖的になるといったデメリットもあります。一方、兼任は専従に比べると診療に費やせる時間は減ると思いますが、他分野での経験や知識を組み込みながら視野が広くバランスのよい診療が行えます。

今回の診療体制変更はホスピスにとって大きなターニングポイントとなりました。緩和ケア診療におけるマンパワー不足というピンチではあったので

すが、考えようによってはチャンスでもありました。今のところは明るく開かれたホスピス、複数の医師で担当することによる幅の広い診療を実現でき、デメリットを十分に補っております。今後も地域の皆さまに愛されるホスピスを目指して邁進して参りますのでよろしくお願いいたします。



緩和ケア病棟  
管理部長・  
泌尿器科部長  
伊藤靖彦



## 院長 メッセージ

Message of the  
hospital  
superintendent

平成30年9月  
病院長 森下剛久

## 「地域多機能型病院」

聖霊病院がめざすのは地域多機能型病院です。歴史ある周産期医療を維持しながら高齢化社会の中で比較的軽症な急性期の患者を診る病棟機能と在宅医療への橋を架ける地域包括ケア病棟機能、そして人生の最終段階に寄り添う

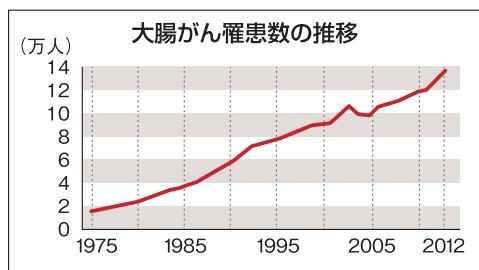
緩和ケア病棟機能、とても幅広い機能を持つ病院。職員一人ひとりも多機能化していく。中小規模の病院だからこそできることがたくさんある。近隣住民のみならずと一緒に過ごす時間を大切にして地域にもっともっと近づいていきます。

## 病気の基礎知識

近年増加傾向にある大腸がん。ただし早期に発見できれば、治癒が望める病気です。

日本人には少なかった大腸がん。男女共に増加傾向にあります。

大腸がんは、大腸（結腸、直腸、肛門）の粘膜にできた腺腫というポリープががん化して発生します。また正常な粘膜から直接発生するケースもあります。大腸の粘膜に発生したがんは、徐々に大腸壁の外へ浸潤し腹腔内に広がったり、大腸壁の中のリンパ液や血液へと流れ、別の臓器などへ転移していきます。食生活の欧米化などにより近年増加傾向にあり、国立がん研究センターの2017年がん統計予測によると部位別罹患率は、男性4位、女性2位、男女計1位。部位別死亡率

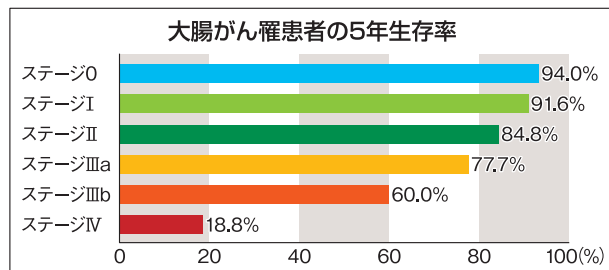


出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

は、男性3位、女性1位、男女計2位となっています。

自覚症状がほとんどなく、自分で気づくのは困難な病気です。

大腸がんは、早期であれば完治の見込める、非常に治癒率の高いがんです。治療には、その他のがんと同様に、手術療法、化学(薬物)療法、放射線療法が用いられますが、早期であれば身体への負担の少ない内視鏡で腫瘍を切除でき、早期の社会復帰が望めます。ただし初期の段階では自覚症状がほとんどなく、自分で病気だと気づくのは非常に難しい病気でもあります。早期発見・早期治療に繋げるために、40歳以上の方には定期的な検診をおすすめします。



出典:大腸癌研究会「大腸癌治療ガイドライン 医師用2014年版」2000~2004年症例

### 内科医長メッセージ

院内だけでなく  
地域の医療機関とも連携し、  
大腸がん患者さんを救います。



内科医長  
(消化器内科)  
野田久嗣

検査で大腸がんが見つかった際には、当院の外科、化学療法科による治療が可能です。当院では治療が難しいケースでも連携する名古屋第二赤十字病院や名古屋市立大学病院で治療を受けていただけますので安心ください。また非常勤で愛知医科大学病院の専門医が勤務していますので、診断を受けてそのまま大学病院で治療を継続することもできます。

またこれまでは入院検査のみだった大腸カメラが、4月から外来で受診いただけるようになりました。患者さんの金銭的・時間的ご負担を軽減し、受診しやすい体制を整えました。さらに健診部門では、大腸ドック(便潜血検査/大腸CT)を新設しました。上でも述べましたが、大腸がんは早期であれば、完治が見込める病気です。早期発見・早期治療のために、ぜひ定期的な検診を心がけてください。

## 検査の 基礎知識

早期発見・早期治療のためには、  
自覚症状があらわれる前に  
定期的に検診を受けることが大切。

### 一次検査では便潜血検査、 二次精査では大腸カメラが有効。

大腸がんの一次検査として有効なのが、便潜血検査です。簡便な検査ですが、毎年行うことで、早期発見に繋がります。便潜血検査結果が陽性の方には、二次精査として大腸カメラ(内視鏡検査)か大腸CTの受診をおすすめします。描写精度が高く最も有効なのが大腸カメラです。先端にCCDカメラを装着した内視鏡を肛門から挿入し、ポリープやがん、出血、炎症などをモニター画面で確認、診断します。ポリープが見つかった際には、そのまま切除することもできます。検査は、当院の医師の他、大学や地域医療機関の経験豊富な専門医が行います。



内視鏡室

### 身体への負担が少なく、 検査時間も短い大腸CT。



大腸CT

大腸カメラは、事前に多量の下剤を飲む必要があり、苦痛を感じる方がいたり、女性の中には恥ずかしさから受診を躊躇される方もいます。そんな方におすすめしているのが大腸CTです。細いチューブで肛門から炭酸ガスを注入し、拡張した大腸をCT撮影します。仮想内視鏡(3次元画像)だけでなく、さまざまな断面から大腸がんやポリープなどの有無を調べられます。検査時間は15分程度、20分程休憩すれば、そのまま帰宅していただけます。内視鏡と比べ苦痛も少なく、新しい検査法として普及しています。

患者さんが痛い時に率直に「痛い」と  
言える環境作りに努めています。



外来・内視鏡室  
看護師  
小倉明日香

Talk  
01

検査前の問診を大切にしています。手術歴・術後癒着のある方が大腸カメラを受ける場合、少なからず痛みを伴います。事前に聞いておけば「痛かったらすぐに言ってくださいね」とお声掛けもしやすくなります。痛みを訴えられたら医師に合図し、用手圧迫で痛みを緩和させたり、安全安楽に検査できるようサポートします。

受診者が増加するであろう大腸CT、  
安心して受診いただくため研鑽します。



放射線技術科  
診療放射線  
技師  
米澤伸哉

Talk  
02

6月に導入されたばかりの大腸CTですが、患者さんの負担が軽く、他の臓器の情報も得られるなどのメリットもあり、今後受診者数が増加するものと見込んでいます。検査を担う放射線技師として、日々技術の研鑽に励むとともに検査中も、患者さんに今何をしているのかを逐次ご説明し、不安を軽減できるよう努めます。

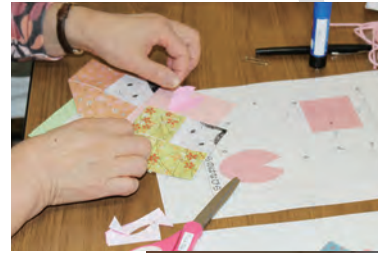


## 病院からのお知らせ

### 01 住み慣れた地域で健康に過ごす～いりなか聖霊カフェ～

2018年2月から毎月第二水曜日に開催している「いりなか聖霊カフェ」も7回が終了しました。毎回、15～20名程度の地域の方が参加しています。お茶を飲みながら近況をお話し楽しいひと時を過ごしていただいています。

いりなか聖霊カフェでは、当院の作業療法士による折り紙創作をしたり、振り込め詐欺防止対策や空き巣防止対策の話を昭和警察署の方から聞いたりと毎回、高齢者の方が興味ある内容や認知症に関することも行っています。11月14日(水)の14時から物忘れ外来の白水重尚医師による認知症に関する話をさせていただく予定にしています。運営には当院の職員だけでなく、4名のボランティアの方と一緒にしています。一度、いりなか聖霊カフェにいらしゃいませんか？



### 02 滝川学区親子ふれあいフェスタ2018開催のお知らせ

10月14日(日)10時～14時に滝川小学校で開催される「滝川学区親子ふれあいフェスタ2018」に聖霊病院もブース出展します。

親子で健康について考えてみようとして、親子で肌に優しいスキンケアの実際を学んだり、簡単な体力測定(握力等)を行う予定にしています。当日は、当院の看護師やリハビリスタッフと一緒に楽しく健康について考えてみませんか？参加は無料です。多くの方の参加をお待ちしております。



### 03 新任医師紹介

平成30年5月1日から歯科口腔外科医1名、7月1日から眼科医1名、合わせて2名の常勤医師を迎えました。今後もより一層、地域医療に貢献していきます。

#### 歯科口腔外科

#### 井沢一樹

専門領域:  
歯科口腔外科  
全般  
(5月1日から)



#### 眼科

#### 林 真理子

眼科医長  
専門領域:  
眼科一般  
(7月1日から)



### 編集後記

西日本では記録的な豪雨災害に見舞われ、東海地方では梅雨明けと同時に連日35℃を超える猛暑が続き、体調の変調をきたしている方も多いのではないのでしょうか？夏バテには栄養と休息をとることが一番です。

今回の特集は、大腸がんです。大腸がんは早期に発見できれば完治が見込める病気です。定期的な検診を受けていただくことも大切です。

企画広報室(加藤)